

シンポジウム「図書館の可能性を探る」

【シンポジウム全体の目的・趣旨】

- ・ 地域資料のデジタルアーカイブの取組の現状・課題を知る
- ・ 地域資料デジタルアーカイブがもたらす図書館のあらたな可能性に気づく
- ・ デジタルアーカイブに関わる町・県・国の役割の違いと相関について知る
- ・ 地域資料デジタルアーカイブが地域の活性化につながる視点を見出す

【ディスカッションから考えたいこと】

- ・ 地域活性につながる図書館の新たな可能性の具現化方策は？
- ・ 中堅図書館職員が担うべき役割は？

進行メモ 平賀 研也（県立長野図書館）

《事例を見る視点》

- ★あなたはどのような役割を期待されてここにいるか
- ★「図書館の可能性」をどこに感じるか？
- ★なぜ「デジタルアーカイブ」？
- ★デジタルアーカイブの違い(階層・コンテンツ・担い手・活用…)と相関。
- ★なぜ図書館が取り組むのか？
- ★だれのための情報資源か？
- ★担い手はだれか？
- ★アウトカムは何か？
- ★あなたは何かができるか？

《課題整理とまとめ》

・なぜ図書館が「デジタルアーカイブ」？

- 情報化社会/知識基盤社会と社会教育機関 MLA/AU/K
- 収蔵資料の提供から情報の提供へ
- レファレンスからレフェラルサービスへ（ヒトモノコト）
- MLA 連携・地域課題解決・学社融合…

・図書館の優位性

- ☆地域情報資源へのポータル
- ☆能動的利用者（潜在的）の存在
- ☆レファレンスカ（広範・潜在的）
- ★情報の開示公開を前提とした機能
 - ドキュメンテーション（データベース構築）：
 - 収集(Collection)—同定（Identification）—記述(Description)—検索（Search）—公開（Open to the Public）
 - キュレーション：
 - 登録(registration)—保存(Conservation)—キュレーション(Curation)—調査研究(Research)

・デジタルアーカイブの現在（しくみ）

ナショナルアーカイブ — アグリゲーター — 地域アーカイブ

デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会及び実務者協議会（知的財産戦略会議）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/index.html

知的資源戦略会議/アーカイブサミット

<http://archivesj.net/>

・デジタルアーカイブの現在（わけ）

震災アーカイブ活動が投げかけているものなど—地域のキオクをキロクする

・既存の情報資料を同じ視点で省みる

「デジタルだから」ではない ⇔ 「デジタルだから」の意味は